

## 確実な水分補給と口腔ケアの あり方の追求

### 一步上の介護力を目指しての取り組み

社会福祉法人 共済福祉会  
特別養護老人ホーム 伊豆白寿園

### 特別養護老人ホーム 伊豆白寿園

- 施設の開設 ・1978年(昭和53年)7月  
特別養護老人ホーム 定員50名で開設
- 施設の変遷 ・1981年(昭和56年)4月  
ショートステイ 3床 増床  
・1998年(平成10年)9月  
ショートステイ 8床 増床  
・2000年(平成12年)10月  
特別養護老人ホーム 定員20名増の70名  
ショートステイ 1床減の10床
- その他の事業内容 高齢者福祉関連事業  
通所介護事業 訪問介護事業  
居宅介護支援事業

### 特別養護老人ホーム 伊豆白寿園

#### 施設概要

伊豆白寿園の建物は従来型ですが、本館1階及び2階、別館をそれぞれユニットに見立てて、3つのユニットに職員を固定したユニットケア方式によるケアを実践し、利用者との心とこころの触れ合いを重視しながら利用者の支援を行っています。

### 施設の課題として取り組んだ理由は

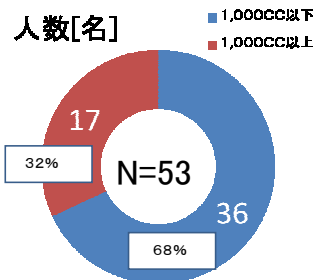
利用者が発熱し受診した結果、  
尿路感染症や脱水と診断されることが多いことから取り上げました。

### 確実な水分補給とするために

1日の水分摂取量を1,000CCとして  
取り組んでいくために、現在の水分摂取量を  
調べました。

【調査は、H24年4月～5月】

### 水分摂取量（現状）



## 確実な水分補給とするために

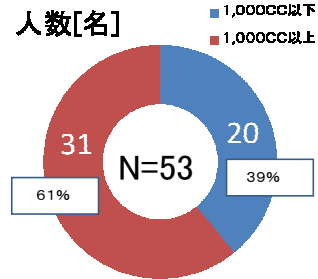
### 調査内容（1/4）

半数以上の利用者の方が目標摂取量に至っていない。

- （1）摂取しているのに記録漏れがあった。
- （2）記録の単位が徹底されていなかった。  
記録は“CC”としたが、%で記録した記録者があった。

上記事項を徹底するよう周知し再調査を実施した。

## 水分摂取量（現状の再調査）



## 確実な水分補給とするために

### 調査内容（2/4）

改善していくために、各フロア（各ユニット）に再度水分補給の必要性和記録の取り方を周知した。

#### （1）記録の単位・量の目安について

- ・食事時の水分記入は、お茶やその他の飲み物はパーセントでなくCC値で記入
- ・取って付きカップは8～9分目で150CC。
- ・トロミのお茶はコップに8分目で食事時に提供。

## 確実な水分補給とするために

### 調査内容（3/4）

#### （2）記録の仕方について

※1杯以上飲んだ時は、おかわりした時に記載する。

日付	朝				昼				夕						
	主食	副食	汁	茶	備考	主食	副食	汁	茶	備考	主食	副食	汁	茶	備考
1	100	100	100	150		100	100	100	150		100	100	50	75	
	おやつ														
	【水分量と時間】														

※1杯の半分の摂取量は50ではなく75と記録する。

## 確実な水分補給とするために

### 調査内容（4/4）

#### （3）補給回数の変更について

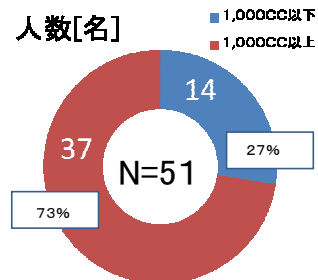
水分摂取量の改善策として食事と10時、15時の水分補給の時間以外にあと1回増やした。

（11時、13時～14時のいずれかで業務に組み込み役割担当を決めて実施）

#### （4）これらの実施内容の周知について

研究グループの食事班メンバーより、それぞれのユニット会議の中で周知と指導を行った。

## 水分摂取量（対策後）



## 確実な水分補給とするために

### 活動の成果と評価

7割強の方が、1日の目標摂取量に達することができ、今年度は脱水や尿路感染症など水分不足により起こる病気になり患する方が対前年度比で次の様に減少した。

尿路感染症	30%減
膀胱炎	63%減
脱水	82%減

## 全身疾患予防のための口腔ケアの取り組み

全身疾患とは何かを調べ、予防をしていくために、口腔ケアの重要性を感じ現在の口腔ケアの方法と利用者の方にどの程度行えているのか情報収集を行ったところ次のようなことが分かった。

- 1 ベッドで過ごす方の口腔ケアは徹底されていない。
  - 2 利用者の歯肉の接着剤を毎回外して歯磨きをするのかはっきりしていない。
  - 3 口を開けてくれない利用者がある。
- 等取り組みが確実に出来ていないことがわかった。

## 全身疾患予防のための口腔ケアの取り組み

口腔ケアをしないと起こる病気と口腔ケアの方法について勉強会を実施した。

### 【勉強会の内容】

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| (1) 口腔ケアの目的  | (7) 嚥下機能低下による病気 |
| (2) 全身疾患について | (8) 嚥下機能を保つ     |
| (3) 予防をするために | (9) 椅子での姿勢      |
| (4) 口腔ケアの方法  | (10) 車椅子での姿勢    |
| (5) 口腔ケアの実践  | (11) ベッド上での姿勢   |
| (6) 嚥下機能の低下  | (12) 介助方法       |

## 全身疾患予防のための口腔ケアの取り組み

### 活動の成果と評価

知識は習得できたが、時間がない等により記入漏れなどがあり、全利用者に徹底されていない事が分かった。その後、改善策として食事介助が全介助の方には、食事配膳時に準備し介助と口腔ケアをセットで行うようにした。

※現在は、食後すぐの口腔ケアは吐気にもつながることから、取りやめ他の時間に行っている。  
(例えば、食後30分後に行う等)

## 全身疾患予防のための口腔ケアの取り組み

### 今後の取り組みの方向性について

今回の取り組みは、全身疾患について理解を深めることと、現在の口腔ケアの実施状況を調査するに留まった。このことからこの取り組みの継続として、平成25年度は以下の事を計画し取り組んでいる。

### 〈取り組み〉

居室担当のケアワーカーは、看護師との連携を図り、利用者一人ひとりのリスクを把握し、適切な口腔ケアの方法を検討した上で、利用者の個別ケアに繋げて行く。